

町田市立博物館(以下、博物館)を『町田市郷土博物館』(仮称)  
として現在地に存続させることを要望する請願

【請願内容】

博物館が立地する弥生ヶ丘自治会と隣接の町内会・自治会で構成する町田第二地区町内会自治会連合会は、地域を代表して、美術・工芸関係部門を新設の「(仮称)町田市立国際工芸美術館」に移した後の博物館が、同館に残された縄文土器など貴重な歴史民俗系資料と、市内各所に散在する歴史文化遺産とを一元管理して、ダイナミックに展示することを目的とした、『町田市郷土博物館』(仮称)として存続することを強く望み、玆許、傘下住民の署名簿を添えて請願いたします。また、将来において同施設が建て替えられる場合も、現在の場所に存続することを要望するものです。

【上記請願の理由】

- ① 本町田遺跡公園は、縄文・弥生両時代の住居跡や遺物が同一の場所に発掘された、全国でも稀有な場所と仄聞します。大概の古代住居跡が、縄文或いは弥生の何れか片方の時代に属するものであるのに較べ、本町田遺跡で両時代の住居跡が同じ場所に発見されたことは、同地域に推定 5,500 年前から連綿と人が住み続けてきたことを意味し、町田市が大昔から住環境に優れていたことを、実証していると理解してもよいのではないのでしょうか。実際に、本町田遺跡公園の周辺では沢山の遺跡が発掘されています(別紙の遺跡地図参照)。それにも関わらず、発掘された遺物や、当時の原始的な生活様式から、現代に至る、生活様式の変化を史実に沿って興味深く展示する本格的な施設はありません。郷土の宝であり、国の宝でもあるこれらの歴史的な文化遺産を積極的に展示して、全国に向けて町田市が如何に住みやすい場所であるかをPRすることは、市のステイタスを高め、市民の郷土に対する誇りと、郷土愛を育むものと考えます。
- ② 市立博物館は、昭和 48 年に、博物館に隣接した遺跡や、市内各地の遺跡群から出土した埋蔵文化財と市内の民家に伝わる常民文化財など、郷土の先人たちが遺した貴重な資料を収集、保存、展示する目的で、『町田市郷土博物館』として開館しましたが、その経緯から隣接する「遺跡公園」と博物館は密接不可分な関係にあります。住みやすい町田の特性を、古代に遡って、説明するための有益な施設として遺跡公園と一体となった『町田市郷土博物館』が果たす役割は大きく、その開設を請願するものです。

- ③ 遺跡公園と博物館が併存するこの場所は、遠く丹沢山系、南アルプス、秩父、多摩、都心部を望む高台にあり、復元された縄文・弥生の住居を通じて、郷土の先人である縄文・弥生人が暮らした現場を体感できる貴重な環境に立地しています。文化財の保存・展示は、単に資料を展示する「箱もの」があればいいということではありません。施設が立地する環境と展示品が一体になってこそ、見学に訪れる人に深い感動と学びを与えます。遺跡の町・町田のシンボルとして、博物館がこの場所に立地した理由を今一度思い起こしていただき、博物館が遺跡公園とセットになって今後も、この地に存続することを請願するものです。
- ④ 玉川学園前駅⇒市立博物館⇒遺跡公園⇒日向村公園⇒薬師池公園を中心とした周辺の自然公園⇒野津田公園⇒小野路地区というハイキングコースは、町田市が誇る、自然、歴史、文化遺産のモデルルートです。このルートの中核文化施設の一つとしての『町田市郷土博物館』（仮称）の開設は、ますます重要になっていくと確信するものです。

【請願項目】

町田市立博物館を『町田市郷土博物館』（仮称）として現在地に存続させること。